

地理歴史部会

研究主題 社会の変化に自ら対応する力をはぐくむ評価と指導の在り方

I 研究の進め方

平成10年の教育課程審議会の答申では、高等学校地理歴史科の改善の具体的事項として、各科目の特質を生かした内容の厳選や主題学習による内容の工夫を指摘している。その答申を踏まえ、現行の高等学校学習指導要領では次の点を改訂の要点としている。

- ① 地理・歴史の相互の関連に配慮しながら、国際社会に主体的に生きる資質を培う。
- ② 学び方を学ぶ学習や課題解決的な学習を充実し、問題解決的な能力の育成を図る。

また、平成12年の教育課程審議会の「児童・生徒の学習と教育課程の実施状況評価の在り方（答申）」では、指導と評価の一体化を図る視点に立った評価と指導の改善を求めている。

これらを踏まえて今年度の本部会では、変化の激しい現代社会の課題に対して、多面的・多角的にとらえ、自ら考え、主体的に解決する態度と力を育成するとともに、評価結果を踏まえた指導方法の改善を目指した。生徒にとって身近な題材を取り上げて、世界史、日本史、地理の各科目の特質を生かしつつ、相互の関連に配慮して2つの指導展開例を作成することとした。その際、作業的、体験的な学習を中心として、生徒自らが主体的に学習活動に取り組むとともに、授業の評価規準として「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」の四観点を明確にする指導展開例とした。また、評価を学習や指導の改善に役立たせる視点から、生徒による授業評価も生かして、評価結果を踏まえた指導方法の検討及び考察を行った。

具体的な指導展開例は、水産業の発達が人間生活に与えた変化を認識し、それに伴う課題を解決する観点から「水産業を通してみる日本と世界の一体化」と、日常生活に不可欠な紙の歴史と現状を学び、紙の生産・消費の現代社会への影響を考察する観点から「紙を通してみる資源問題」である。両展開例とも、①ワークシートなどを活用した主体的な学習、②資料の解説や白地図の作業などの体験的な学習、③発問に対する回答や発言などの思考的な学習、④自己評価票への記入と分析など、学習活動とそれに対応する評価を行っている。

さらに評価結果を踏まえた指導方法では、「努力を要する状況になったときの手だて」、「発展的な学習への手だて」を検討し、指導の改善を図った。「水産業を通してみる日本と世界の一体化」ではワークシートや自己評価から基礎・基本の再確認を行い、個別指導を行った。また、発展的な学習として、個別のテーマを提示し更に学習内容を深めた。「紙を通してみる資源問題」では自己評価により目標に到達していない生徒には、新たなワークシートを与え個別指導を行った。また、発展的な学習として生徒の考察・意見を集約したプリントを作成し、意見交換を行うことで学習効果を高めた。

1 水産業を通してみる日本と世界の一体化

魚類や鯨などの水産物は、常に人々に恵みを与え続けてきた。人々は、こうした水産物を獲得するために、沿岸海域から沿海、更には遠洋へと次第に行動範囲を拡げてきた。また、それに伴って各国の食生活や社会に大きな変化をもたらしてきた。今日では、様々な水産物が世界各国の漁場より消費地に向けて地球的規模で流通しており、世界有数の水産物消費国である日本は、こうした水産物を限りある資源として守っていく責任を担っている。そこで、水産物の獲得や流通の変遷と、それに伴う社会の変化を歴史的な視野から考察することによって、一体化していく国際社会の変化に対応できる力を身に付けることができるよう本教材を取り上げた。

2 紙を通してみる資源問題

人類の文明を記録し生活を支えてきた紙は、今日、私達の生活に不可欠なものであり、生徒も興味・関心を持つ題材と言える。かつて、紙は貴重なものとして扱われ再生利用までされていたが、現在は大量生産・大量消費されるようになった。紙の生産と消費を地理的・歴史的視点から学習し、社会の変化により派生した紙に関する資源問題を考察する。その上で紙の利用を通して、自らのライフスタイルの見直しと今日的課題である資源問題を考えることによって、変化の激しい現代社会に対応できる力を身に付けることができるよう本教材を取り上げた。

Ⅱ 第1分科会「水産物を通してみる日本と世界の一体化」

1 目標

人々は、魚類や鯨などの水産物を獲得するために、沿岸海域から、沿海、遠洋へとしだいに行動範囲を拡げ、それに伴い各国の食生活や社会は、大きな変化をとげてきた。本授業では、こうした水産物の獲得や流通の変遷と社会の変化を歴史的な視野から考察し、一体化していく社会の変化に対応できる力を身に付けることを目標とする。

2 評価規準

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断	ウ 資料活用の技能・表現	エ 社会的事象についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> それぞれの時代における水産物と社会との関わりに関心をもとうとしている。 発問に対して意欲的に答えようとしている。 ワークシートへ学習事項を積極的に記入している。 自己評価票に積極的に記入しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 水産物の獲得と流通が社会に与えた影響を推測し、正しく判断している。 戦争が水産物の獲得と流通に与えた影響について考察している。 水産物の獲得や流通をめぐる国際化の動きを考察している。 これからの水産物獲得や流通の在り方について考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料などからグラフ化や地図化をしている。 資料を読み取り、自分の意見をまとめている。 調査内容と資料を組み合わせてまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本と外国における近代までの水産物の獲得の状況を理解している。 現在の水産物の獲得や流通は地球規模で行われ、水産物の国際管理が進む中、日本では漁獲から輸入へ転換していることを理解している。

なお、上記の評価規準については、「ア=関、イ=思、ウ=資、エ=知」として、3 指導と評価の計画(1)(2)には略記した。

3 指導と評価の計画

(1) 学習活動の各科目における位置付け

	学習活動	評価規準	各教科における位置付け
1	<ul style="list-style-type: none"> ノルマン人、バスクの人々の活動とタラ漁を結び付けて理解する。 キリスト教の食物に対する制限とタラ漁との関係を理解する。 ニューファンドランド沿岸でのタラ漁と北米における勢力争いとの関係を考察する。 ニューイングランド植民地の発展の過程とタラ漁業の関係を考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 知・遠洋航海とタラ漁の関係を理解している。 知・宗教主導で新たなモノへの需要が生まれたことを理解している。 思・資料に基づき、各国の植民地争奪とタラ漁の関係を考察している。 思・資料に基づき、ニューイングランド植民地の発展、大西洋三角貿易、アメリカ独立戦争とタラ漁の関係を考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界史B：(3) 諸地域世界の交流と再編のイ、ヨーロッパ世界の形成と変動 世界史A：(2) 一体化する世界のア、大航海時代の世界 世界史B：(4) 諸地域世界の結合と変容のイ、ヨーロッパの拡大と大西洋世界 世界史A：(2) 一体化する世界のウ、ヨーロッパ・アメリカの諸革命 世界史B：(4) 諸地域世界の結合と変容のウ、ヨーロッパ・アメリカの変革と国民形成
	<ul style="list-style-type: none"> アメリカの捕鯨業と日本への開国要求との関係を理解する。 江戸幕末期の日本の水産業について理解する。 沿岸漁業から遠洋漁業へと変化していく過程を考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 知・アメリカにとっての捕鯨業の重要性と日本の開国の必要性を理解している。 知・江戸時代までは沿岸漁業が中心であったことを理解している。 思・漁業の近代化と技術の革新、日本の版図の拡大により、沖合漁業からさらに遠 	<ul style="list-style-type: none"> 日本史A：(1) 歴史と生活のア、衣食住の変化及びエ、産業技術の発達と生活 日本史B：(1) 歴史の考察のイ、歴史の追究(7) 日本人の生活と信仰 日本史B：(5) 近代日本の形成とアジアのウ、近代産業の発展と近代文化

2	<ul style="list-style-type: none"> 戦争の長期化が水産業や国民に与えた影響について考察する。 	思	<ul style="list-style-type: none"> 洋漁業へと発展していく過程を考察している。 戦争の長期化の影響から水産業や国民の生活が統制されていく過程を考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本史B：(5)近代日本の形成とアジアのイ。国際関係の推移と立憲国家の展開 日本史A：(3)近代日本の歩みと国際関係のイ。近代産業の発展と国民生活 日本史B：(6)両世界大戦期の日本と世界のウ。第二次世界大戦と日本
3	<ul style="list-style-type: none"> 日本の魚食と水産業の動向の変化を理解する。 	知	<ul style="list-style-type: none"> 日本人が普段食べる水産物の変化と日本の水産業の動向とのつながりを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 地理A：(1)現代世界の特色と地理的技能のエ。身近な地域の国際化の進展
	<ul style="list-style-type: none"> 日本で行われているサケやマグロ漁業と輸入の現状を理解する。 水産物獲得や流通の国際化が進む中で、水産物をめぐる日本の国際協調の在り方を考察する。 	知 思	<ul style="list-style-type: none"> 日本の水産業と水産物輸入の状況を理解している。 水産物をめぐる日本の状況の変化と今後の在り方について考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> 地理A：(1)現代世界の特色と地理的技能のイ。結び付く現代世界 地理B：(3)現代世界の諸課題の地理的考察のカ。人口、食料問題の地域性

(2) 指導と評価の展開

	学習活動		評価規準	評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> スーパーのちらしに載っている水産物名と生産国名のまとめから、世界各地から水産物を輸入していることに興味をもつ。 タラの干物などを見てタラについて興味をもつ。 	関 関	<ul style="list-style-type: none"> スーパーで売られている水産物が外国から広範囲に輸入しているものであることに関心を示している。 タラについて関心をもち、タラがどのような魚か理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料整理の作業の確認
展開	<ul style="list-style-type: none"> 地図帳や白地図を活用して北ヨーロッパ周辺の海域を確認しその地理的特性を考える。 資史料よりノルマン人の漁業、交易の様子を理解する。移動経路の地図からタラとの関係を考察する。 キリスト教の食物に対する制限、タラ需要増加の理由を理解する。 バスクの人々が北海及び北米沿岸でタラ漁をしていたことを理解し、タラが長距離輸送可能となった理由を考察する。 	資 思 知 思 知 知 思 資 資 思	<ul style="list-style-type: none"> 地図を適切に使用し、白地図での作業を適切に行っている。 良好な漁場の理由を考察している。 資史料の読み取りと白地図作業を適切に行い、ノルマン人のタラ漁の様子を理解している。 遠洋航海は干タラが糧食だったことを考察している。 キリスト教の宗教行事に関心をもち、タラ需要増加の理由を理解している。 バスクの人々がノルマン人より遠洋海可能な船の建造法を学んだことを理解している。 塩漬タラ製造の過程を資史料から読み取り、塩漬という保存方法の考案で、長距離輸送が可能となり、ヨーロッパの需要に応じていたことを考察している。 ジョン=カボットの航海についての報告を読み、北アメリカ沿岸の状況を読み取っている。 新航路や各国の北アメリカ植民地を白地図に記入している。 資史料からイギリス、フランスについてのニューファンドランドの位置付け 	<ul style="list-style-type: none"> 白地図作業の観察 発問で確認 白地図作業の観察 ワークシートの内容の分析 ワークシートの内容の分析 発問に対する生徒の発言の確認 ワークシートの内容の分析 白地図作業の確認 発問に対する生徒の発言の確認
閉	<ul style="list-style-type: none"> 資史料と白地図作業よりニューファンドランド周辺漁場の当時の位置付けを考察する。 	資 資 思	<ul style="list-style-type: none"> 資史料からイギリス、フランスについてのニューファンドランドの位置付け 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの内容の分析 白地図作業の確認 発問に対する生徒の発言の確認

展	<ul style="list-style-type: none"> ・資史料により、ニューイングランド沿岸の漁業を理解する。 ・資史料により、大西洋三角貿易におけるタラの果たした役割を考察する。 ・アメリカ独立戦争に至る道筋を考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 知・とそれをめぐり勢力争いとなることを考察している。 ・資史料の読み取りにより、当時の大西洋東海岸の状況やプリマス植民地の植民の実態を理解している。 資・資史料よりニューイングランドのタラの輸出先や奴隷の食物は何かを読み取っている。 思・ワークシートに三角貿易での人とモノの移動を記入し、ニューイングランド植民地繁栄の理由を考察している。 思・年表によりイギリス、フランス植民地戦争の結果を理解し、イギリスの重商主義政策の強化とアメリカ独立の関わりについて考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの内容の分析 ・ワークシートの内容の分析 ・発問に対する生徒の発言の確認 ・ワークシートの内容の分析
	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの捕鯨業と日本への開国要求との関係を理解する。 ・江戸時代の日本の水産業について理解する。 ・明治維新後の日本の水産業を取り巻く社会の変化を理解する。 ・明治期後半以降に水産業に大きな変化があったことを考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 関・アメリカにおいて捕鯨業が生活の様々な場面に関与していたことに関心をもっている。 知・日本の開国がアメリカの捕鯨業にとって重要であったことを理解している。 知・江戸時代は沿岸漁業が中心であること、また干物や塩物での魚食が中心であったことを理解している。 知・缶詰の開発により保存技術が向上したこと、それによって輸出が盛んとなり、さらに兵食としても活用されたことを理解している。 思・ポーツマス条約や日露漁業協定の締結による漁業権の拡大と遠洋漁業奨励法の制定により沖合漁業からさらに遠洋漁業へと発展していく過程を考察している。 思・漁法の発達や動力機の導入が水産業の発達に大きな影響を与えたことを考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発問に対する生徒の発言の観察 ・発問に対する生徒の発言の観察 ・ワークシートの内容の分析 ・ワークシートの内容の分析
	<ul style="list-style-type: none"> ・大正期から昭和前期の日本の水産業の発展の様子を考察する。 ・戦争の長期化が水産業や国民に与えた影響について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 思・鉄道を利用することで流通が活発化し、築地中央卸売市場などが設立されたことを考察している。 資・「根室女工節」の一節や「お魚カルタ」を通して、水産業の様子を読み取っている。 思・戦争の長期化の影響から漁獲量が減少することや、配給制や水産統制令によって水産業が大きく変化していく過程を考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの内容の分析 ・資史料の読解力の分析 ・ワークシートの内容の分析
開	<ul style="list-style-type: none"> ・普段食べている魚とその料理法に関するアンケートに対するグループ分析の結果を見て、日本人の魚食について関心をもつ。 ・資料から、日本における魚食の変化と水産業の動向を考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 関・アンケートにより日本人の魚食の変化の実態に関心をもっている。 資・アンケート分析の的確な発表を行っている。 思・消費者物価指数の指標に使用されている水産物の変遷や日本の水産業の動向の変化とのつながりを考えている。 資・統計をグラフ化する作業を行い、グラフの変化を適切に読み取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発表の観察 ・発問に対する生徒の発言の観察 ・生徒の作業の観察
	<ul style="list-style-type: none"> ・資料と写真により、マグロの特 	<ul style="list-style-type: none"> 関・マグロとマグロ漁業に関心を示してい 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発言の観察

展 開	<p>徴とマグロ漁業の方法を理解する。</p> <p>・資料により、日本のマグロ遠洋漁業の様子と、マグロを外国で蓄養し、空輸する実態を理解する。</p>	<p>知</p> <p>知</p> <p>資</p> <p>思</p>	<p>る。</p> <p>・マグロは回遊魚であり、マグロの漁場が世界中に広がっていることを理解している。</p> <p>・資料から日本のマグロ遠洋漁業や蓄養の様子を理解している。</p> <p>・白地図に、日本船による遠洋漁業と日本へ輸出するための蓄養を行っているそれぞれの海域と輸入ルートを書き込んでいる。</p> <p>・冷凍技術の発達や内外価格差の結果、輸入の割合が増えていることを考察している。</p>	<p>・資料の読解力の分析</p> <p>・資料の読解力の分析</p> <p>・生徒の作業の確認</p> <p>・発問で確認</p>
	<p>・資料により、クロマグロ漁獲を世界的に禁止する国際的な動きがあることを理解する。</p> <p>・資料により、日本のサケ漁獲量の変化と養殖の進展について理解する。</p> <p>・資料により、国際海洋法を理解し、現代の水産物をめぐる問題点を考察する。</p>	<p>知</p> <p>資</p> <p>知</p> <p>資</p> <p>思</p>	<p>・クロマグロが急激に減少しているため、その漁獲制限、禁止をめぐって国際的な問題となっていることを理解している。</p> <p>・資料を適切に読み取っている。</p> <p>・各国の経済水域が設定されたため日本の北洋漁業が縮小し、サケの漁獲量が低下したこと、そのため養殖や輸入の割合が増大していることを理解している。</p> <p>・資料から国際海洋法の内容を把握している。</p> <p>・水産業と国際的資源問題、環境問題との関わりについて、考察している。</p>	<p>・資料の読解力の分析</p> <p>・資料の読解力の分析</p> <p>・ワークシートの内容の分析</p> <p>・資料読解力の分析</p> <p>・発問で確認</p>
ま と め	<p>・水産物を求めて、人々が行動領域を拡大させていった経緯をまとめる。</p> <p>・これまで学習したことを基に新たにお魚カルタを作成し、発表する。</p> <p>・水産物獲得、流通の国際化が進む中で、水産物をめぐる日本の国際協調の在り方を考察し、発表する。</p>	<p>思</p> <p>思</p> <p>思</p>	<p>・既習のワークシートを分析し、適切にまとめている。</p> <p>・既習の内容を整理し、カルタのかたちにとまとめている。</p> <p>・日本の水産物獲得、流通を取り巻く状況の変化と今後の在り方について考察している。</p>	<p>・ワークシートの内容の分析</p> <p>・発表内容の分析</p> <p>・これからの水産物獲得、流通に対する意見の分析</p>

4 評価結果を踏まえた指導方法の検討及びその考察

評価方法については、①発問に対する生徒の発言内容の観察と分析、②地図及び資料の読解やワークシートへの記入と授業態度の観察、③ワークシートへの記入内容の分析、④自己評価票の記入の分析、の4点からなる。

この評価方法を実際の授業に取り入れて検証した。第1時限では、魚に対する生徒の興味・関心はあまり高くなかったが、作業を通じて世界各国から日本に輸入されていることを理解し、しだいに魚に対する関心が高まった。その上で、現在も日本へ魚を大量に輸出しているノルウェーでの古代の漁業から、時代の流れにそって魚が世界の一体化に果たした役割を理解するよう、資料を多く使って授業を展開したので、生徒の関心は更に高まり、ニューイングランドの繁栄に魚が関係したことの分析では積極的に発言をしていた。資料の読み取りに時間がかかる生徒が多かったので、さらなる手だての工夫が必要である。

第2時限では、日本の漂流民や魚食などの話題に興味を示していた生徒は、庶民の生活の変化から歴史を考え始めた。漁獲量増大の要因が日本の版図の拡大だけではなく漁法や漁船の改良にあったことを再確認した。さらに鉄道の敷設や缶詰の製造などによって水産業が大きく変化したことや、水産物の缶詰が生糸や綿織物などとともに日本の主な輸出品であったことを理解した。また、戦争の長期化が水産業にも影

を落とし、戦時下の食卓の様子には戦争の厳しさを感じたようである。

第3時限では、日本は現在、世界一の水産物輸入国であるという、これまでの授業で深まった生徒の認識と異なる事項を扱ったため、生徒は当初困惑していた。しかし、生徒が行った食生活に関するアンケート調査結果と様々な事例をまとめ、理解を深めていくにしたがって、自らの意見をまとめることができた。

生徒にとって身近な素材を取り上げることによって、生徒は歴史的な人々の営みや、現代における経済的な問題などが具体的に見えてくることを学んでいった。さらに、水産物獲得を目指す人々の活動範囲は拡大を続け、ついには世界中の漁場より様々な水産物が得られ、流通している状況を理解することで世界の一体化を実感することができた。そして、水産物をめぐる今日の問題を地球的視野で考察するようになった。現在の生徒は水産物を食べる機会が少なく、あまり興味・関心を示さなかったが、この授業を通して今後の自分たちの食生活を考え直す機会を与えることとなった。

	努力を要する状況になったときへの手だて	発展的な学習への手だて
1	<ul style="list-style-type: none"> 全体の流れが簡明に理解できる基本のワークシートを与え、個別指導で対応する。 簡略化した資料を示し、再度考察を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ニシン漁や捕鯨に関する文献を示し、水産物と世界の一体化について考察を促す。 大西洋三角貿易で同じく主要商品であった砂糖・毛皮・奴隷についての文献を示し、世界の一体化について考察を促す。
2	<ul style="list-style-type: none"> 授業の流れがわかる年表形式のワークシートを用意し、個別指導を交え対応する。 資料からの読み取りを促すために個別指導で対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 漁業の近代化に伴い、漁業者同士の対立や漁業者と政府との対立も考察するよう促す。 雑誌などを参考にして、戦争下での庶民の生活の努力を調べるよう促す。
3	<ul style="list-style-type: none"> 日本の水産業に関するそれぞれの統計の読み取りポイントを示したワークシートを提示する。 サケやマグロ漁業と輸入の現状を読み取りやすくした資料の解説シートを与え、考察を促す。 他の生徒の意見を集約したワークシートを提示し、考察を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本以外の国の水産業の様子について調べるよう促す。 シシャモやウナギなどの他の魚の資料を与え、日本の漁業と輸入の現状をさらに考察を促す。 熱帯林を守る取組について調べ、国際社会における日本の役割について考察を促す。

ワークシートを用いることにより、生徒は授業開始時に学習項目と要点を把握しやすくなり、考察を深めやすくなった。ワークシートと自己評価票は、授業・単元ごとに回収し、内容を確認し、評価やコメントを書き加えて返却した。その際、ワークシートの内容や自己評価から評価規準に達していないと判断される場合は、教員が個別に対応し基礎、基本の再確認を行い、指導の充実を図った。また、評価規準に達していると判断される場合には、発展的な学習として個別に提示したテーマを学習した。

Ⅲ 第2分科会「紙を通してみる資源問題」

1 目標

今や私たちの生活に身近で必要不可欠な紙がどのように生産され、利用されてきたのかを歴史的な視野から考察する。また、現在、日本は紙消費大国であり、原料を海外に依存していることからくる問題について地理的な視野から考察する。そして紙のリサイクルを通して現代の大量生産、大量消費、大量廃棄のライフスタイルを見直し、紙とどのようにつき合っていくかを考察することで、変化の激しい現代社会に自ら対応する力を身に付けることを目標とする。

2 評価規準

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断	ウ 資料活用の技能・表現	エ 社会的事象についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 身近な紙がどのようにして生活に取り入れられていったか興味、関心をもっている。 日本の木材輸入国での森林伐採の現状について興味、関心をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代の大量生産、大量消費、大量廃棄のライフスタイルを見直し、これからの社会の在り方について考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> 資史料を正しく読み取り、ワークシートにまとめて意見交換や発表を行っている。 地図や統計、画像など地域に関する諸資料から問題を分析し、地理的事象を追究する技能を身に付け、追究した結果を表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 貴重であった紙が身近なものになるまでの歴史的経緯を理解している。 紙の消費量の増加に伴い原料の輸入が増加し、木材輸出国では森林の破壊につながっていることを理解している。

なお、上記の評価規準については、「ア=関、イ=思、ウ=資、エ=知」として、3 指導と評価の計画 (1) (2) には略記した。

3 指導と評価の計画

(1) 学習活動の各教科における位置付け

時程	学習活動	評価規準	各科目における位置付け
1	<ul style="list-style-type: none"> 紙が人類の文明を支える貴重な素材であることに興味、関心をもつ。 中国で発明された製紙法が紙の道を通して西アジア、ヨーロッパへ伝播したことを理解する。 ヨーロッパにおいて近代的製紙産業が確立した背景を考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 関・漆紙文書を通して紙の重要性に関心をもっている。 知・白地図等を活用して初期の製紙法や紙の伝播の様子を理解している。 思・ルネサンス、宗教改革にあたる時代背景を踏まえて考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本史B：(2)原始・古代の社会・文化と東アジアのイ、古代国家の形成と東アジア 世界史A：(1)諸地域世界と交流圏のオ、ユーラシアの交流圏の(イ)遊牧社会の膨張とユーラシア 世界史B：(4)諸地域世界の結合と変容のイ、ヨーロッパの拡大と大西洋世界
2	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの紙の種類や用途から紙の働きに興味、関心をもつ。 資料から日本が紙の生産、消費大国になった理由を考察し、その原料が輸入された地域を調べ、白地図に記入する。 日本の木材輸入国における森林伐採の現状を理解する。 森林伐採が現地の自然破壊につながる問題になっていることを理解し、解決策を考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 関・身の回りの紙の種類や用途から紙の働きに興味、関心をもっている。 思・資料から生産、消費が急増した理由を考察している。 資・資料から白地図作業を行うことで輸入原料の地域分布を表現している。 知・日本の木材輸入国における森林伐採の現状について理解している。 思・資料から問題点を判別し、解決策を考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> 地理B：(1)現代世界の系統地理的考察のイ、資源、産業 日本史B：(7)第二次世界大戦後の日本と世界のウ、現代の日本と世界 地理A：(1)現代世界の特色と地理的技能のイ、結び付く現代世界 地理A：(2)地域性を踏まえてとらえる現代社会の課題のイ、地球的課題の地理的考察の(7)諸地域から見た地球的課題 地理B：(3)現代社会の諸課題の地理的考察のオ、環境、エネルギー問題の地域性
3	<ul style="list-style-type: none"> 貴重であった紙は日本では平安時代から再生利用されていたことを理解する。 江戸時代にはリサイクル社会が形成されていたことを理解する。 現在の紙の消費量、古紙の価格の推移などから循環型社会に向けて今後の日本の在り方を考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 知・記録用としての紙は貴重だったため、平安時代から再生利用されていたことを理解している。 知・江戸時代の商品経済の発達に伴ってリサイクル社会が形成されていたことを理解している。 思・これからの循環型社会の在り方について資史料を用いて考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本史B：(1)歴史の考察のア、歴史と史料の(7)史料を読む 日本史B：(4)近世の社会・文化と国際関係のイ、産業経済の発展と都市や村落の文化 地理B：(3)現代世界の諸課題の地理的考察のオ、環境、エネルギー問題の地域性 世界史B：(5)地球世界の形成のオ、科学技術の発達と現代文明

(1) 指導と評価の展開

階層	学習活動	評価規準	評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> 日本人の1日のトイレットペーパーの使用量を推測する。 「漆紙文書」(漆の付着により腐らずに残った文書)から紙が貴重なものであったことに関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 関・身近で大切な紙に関心をもっている。 関・「漆紙文書」が現存している理由と、紙が再利用されている理由について関心をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発問に対する生徒の発言の観察 ・発問に対する生徒の発言の観察
展	<ul style="list-style-type: none"> 玄奘三蔵が中国にもたらした仏典は何に記録されたものであったのか考察し、紙のない時代の記録材料について理解する。 中国で発明された製紙法(蔡倫による)について理解するとともに、製紙技術が秘密にされた理由を考察する。 タラスの戦いを契機に、西アジア、ヨーロッパへ紙が伝播したことを白地図の作業を通して理解する。 抄紙機(紙すき機械)の写真、構造図を見ながら、ヨーロッパにおける製紙技術の発展(機械化)や木材パルプの原料化により、大量生産が可能になったことを理解する。また、それが「洋紙」として明治期の日本に伝播したことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 関・インドより玄奘がもち帰った仏典が「貝多羅」(やしの木の葉)に書かれたものであったことに関心をもっている。 知・パピルス、木簡・竹簡、羊皮紙など代表的な記録材料が、貴重な考古学的資料となっていることを理解している。 知・製紙工程図の並び替え作業を通して初期の製紙法を理解している。 思・製紙技術が秘密にされた理由を考察している。 資・白地図で紙の伝播の様子を適切に表現している。 知・作業を通して絹の道が紙の道でもあったことを理解している。 関・抄紙機の構造、しくみに関心をもっている。 思・紙の需要を急増させた理由について考察している。 関・原材料(ボロ)不足からエジプトのミイラに巻かれた布が輸入されたことに関心をもっている。 知・材料不足解消のため、木材が製紙原料として開発されたことを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発問に対する生徒の発言の観察 ・ワークシートの内容の確認 ・ワークシートへの取組みの観察 ・ワークシートの内容の分析 ・ワークシートへの取組みの観察 ・ワークシートの内容の確認 ・ワークシートの内容の分析 ・ワークシートの内容の確認
開	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにはどのような紙があるか挙げてみる。 様々な種類の紙の実物を見て、用途を理解する。 資料から日本が紙の生産、消費大国であることを理解し、その理由を考察する。 製紙原料の構成比を理解する。 木材チップ・パルプの輸入状況と輸入相手国を調べ、白地図に記入する。 輸入木材チップがどのような森から得られているのか理解する。 タスマニア島とチリでの森林伐採の現状を資料から理解する。 森林伐採により引き起こされる問題について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 関・身の回りにある紙について興味、関心をもっている。 知・紙の三つの用途(記録する、包む、拭く)を理解し、その重要性を認識している。 思・資料から生産・消費が急増した理由を考察している。 知・国産パルプでも原料の木材チップは輸入が多いことを理解している。 資・白地図に輸入状況や輸入相手国を適切に表現している。 知・作業を通してオーストラリアやアメリカが主な輸入相手国であることを理解している。 知・木材チップは広葉樹の天然林から作られていることを理解する。 知・タスマニア島とチリでの森林伐採の現状について理解している。 思・資料を適切に読み取り、森林伐採の課題を考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発問に対する生徒の発言の観察 ・ワークシートの内容の確認 ・ワークシートの内容の分析 ・ワークシートの内容の確認 ・ワークシートへの取組みの観察 ・ワークシートの内容の分析 ・ワークシートの内容の確認 ・ワークシートの内容の確認 ・ワークシートの内容の分析

展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・日本が原料の木材チップを輸入している理由を考察する。 ・森林伐採による自然破壊の問題を解決するための方策を考察する。 ・「還魂紙」の史料文を読み、平安時代にも紙は再生利用されていたことを理解する。 ・和紙の紙すきの技法(流しすき)のVTRを見る。 ・浅草紙(トイレットペーパー)をはじめ、江戸時代には再生利用されていたものがあつたことを理解する。 ・現在、古紙が回収されて、どのようなものに再生利用されているかを理解する。 ・資料から日本の古紙の再生利用率が世界でもトップクラスであることを理解する。一方、古紙の価格の資料から再生利用にも限界があることを理解する。 ・recycle(再生利用)だけでは限界があることを踏まえて、他の方策についてグループ討議を行う。 ・ドイツでのreduce(削減)、reuse(再利用)の取組についてのVTRを視聴し、日本の大量生産、消費、廃棄の社会を見つめ直すきっかけとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 思: 日本原料チップの輸入の理由を考察している。 思: 課題解決のための方策を考察できている。 資: 史料を適切に読み取っている。 知: 平安時代にも紙は再生利用されていたことを理解している。 関: 伝統工芸の和紙作りに関心をもっている。 知: 江戸時代には商品経済の発達に伴って、傘やろうそくなどの再生利用を仕事とする人々が存在し、リサイクル社会が形成されていたことを理解している。 知: 古紙回収についての資料を読み取り、どのようなものに再生利用されているかを理解している。 知: 資料を読み取り、再生利用にも限界があることを理解している。 思: お互いに意見を出し合うことでrecycle(再生利用)以外の解決策を考察している。 知: 循環型社会について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発問に対する生徒の発言の分析とワークシートの内容の分析 ・発問に対する生徒の発言の分析とワークシートの内容の分析 ・ワークシートの内容の確認 ・ワークシートの内容の確認 ・ワークシートの内容の確認 ・ワークシートの内容の確認 ・発問に対する生徒の発言の分析とワークシートの内容の確認 ・ワークシートの内容の確認 ・ワークシートの内容の分析と生徒の発言の観察 ・ワークシートの内容の確認
	<ul style="list-style-type: none"> ・「紙について学んで自分はどういう行動がとれるのか」をワークシートに記入し、今後の日本の取組について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 思: 循環型社会に向けて今後の日本の在り方について考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの内容の分析と自己評価票の内容分析

4 評価結果を踏まえた指導方法の検討及びその考察

評価方法については、①生徒の発言の観察、②資料の読み取り作業の観察と内容分析、③ワークシートの内容分析、④自己評価票の内容分析の4点を用い、それぞれの学習活動において評価規準と評価計画にしたがって行った。

検証授業の結果から考察できることとしては、第1時限における実際の授業では、身近なトイレットペーパーの膨大な消費量に驚きと関心を示し、本時の展開に対する興味を引き出すことができた。また、白地図作業を通じて、紙の伝播の様子を把握するだけでなく、「シルクロード」という多くの生徒の既存の知識との一体化により、ユーラシア大陸における諸地域世界の交流やネットワークの存在を再確認することができた。しかし、近代的製紙産業の成立の背景となる紙の需要の急増理由については、与えられた資料から読み取るのに苦勞する生徒が多かった。基礎的・基本的な内容の確実な理解の上に立った計画の必要性、及び資料活用における教師の適切な助言の必要がある。

第2時限における授業では、身近な紙が多く種類からなり、生活に深く関わっていることについて興味、関心を引き出すことができた。資料からの読み取りや白地図作業などは、主体的な学習として自分で調べ、結果を判別するので効果があつたようだ。しかし、作業の進捗が個々の生徒で差が出てしまい、その進捗を調整するのが今後の検討課題といえよう。森林伐採の問題が自分たちの生活に深く関わり、多く

の犠牲の下に自分たちの今の生活が成り立っていることに生徒は驚き、次の循環型社会を考えるきっかけになったと考える。

第3時限における授業では、第1・2時限の授業を通して生徒が紙に関して興味・関心が深まっていたので、和紙の流しすき方法についても興味を一層深めることができた。江戸時代が再生利用主体の社会であったことについては、ほとんどの生徒が初めて聞く話であった。通常の通史学習では触れることのない近世社会を新たな側面から知ることで、多面的・多角的な視点から学ぶことができた。資料の読み取りを通して、古紙の回収だけに頼るだけでは不十分であると認識を深めることができたが、循環型社会へ転換するための課題を出し合うことには時間がかかった。ドイツでの取組を扱ったVTRを視聴して、日本との環境に対しての取組の違いを認識し、リサイクル以外の解決策を考えることができた。紙の歴史を踏まえて、さらに現在の森林伐採などを通じて循環型社会に向けて今後の日本の在り方について考察したことは、生徒自らが社会の変化に対応する力をはぐくむことにつながることができたと言える。

全般を通じて、ワークシートについては、授業の流れが分かりやすいよう工夫し、生徒自らが作業内容や記述内容を確認することにより、授業の中で何を理解し、考察したらよいのか分かるように作成した。授業終了ごとにワークシートは回収し、生徒の取組姿勢や記述内容を分析した。自己評価票についても授業ごとに行い、それぞれの評価規準とリンクした質問事項を生徒にA・B・Cの三段階で記入してもらった。そして、この自己評価票を通して、生徒が1時間の授業の中で、何を学び、何を得たのかを自ら評価し、目標に到達できたかどうかを分析した。それらの分析結果の状況に応じて生徒がもう少し努力を要する場合には、以下のような努力を要する状況になったときの手だてを行った。また、生徒が評価規準に到達していると判断した場合には、以下のような発展的な学習への手だてを行い、より広く深い理解と考察を求めた。

時限	努力を要する状況になったときの手だて	発展的な学習への手だて
第1時限	<ul style="list-style-type: none"> ユーラシアの諸地域世界の交流を理解できる基本的なワークシートを与え、個別指導で対応する。 ルネサンスや宗教革命の流れを理解できる基本的なワークシートを与え、個別指導で対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 紙の博物館(北区王子)などを利用して、日本の和紙の歴史について調べるよう促す。 日本におけるA判、B判2種類の紙のサイズの併存理由について、文献等を利用して調べるよう促す。
第2時限	<ul style="list-style-type: none"> 統計資料の読み方や白地図作業の方法を個別に指導し、その結果から得られることをワークシートを用い対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> オーストラリアやチリ以外にも森林伐採で問題になっているところはないかインターネットや文献資料で調べるよう促す。
第3時限	<ul style="list-style-type: none"> 古代から近世にかけての時代の流れが理解できるようなワークシートを与え、個別指導で対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代の紙の文化に関して瓦版や浮世絵についてインターネット等を活用し、調べるよう促す。

さらに、生徒による授業評価も各時限ごとに行い、その内容から次のような授業改善の方策を試みた。本指導案は、第1～3時限の各授業の最後にワークシートによる自らの考察・意見をまとめる作業を設定したが、第1・2時限終了時の生徒の授業評価の中には、他の生徒の意見や考えを知りたいという要望が多く寄せられた。そこで、生徒の考察・意見を集約したプリントを作成・配布し、他の生徒の考えに触れさせ、より深い理解、さらなる考察を促す材料として利用してみることにした。第3時限のまとめとしての考察については、一応ここで本指導案の展開は終わりとなっているが、さらにもう1時限追加する形で、生徒の考察・意見を集約したプリントを教材として、生徒に意見交換を行わせた。追加授業後に提出を求めたワークシートや生徒の授業評価の内容を分析すると、他の生徒の意見に触れ、より広い視野に立った意見を形成していった様子が伺え、生徒同士の学び合いの効果があつたと判断できた(下の生徒の意見参照)。生徒の意見交換をさらに活発にしてゆくために、グループ討議やディベートなど各学校に即した授業形態を工夫していくことが必要であり、今後の課題としていきたい。

<第3時限のワークシートの考察>

- リサイクル以外の他の方策について知り、本を買うときにはブックカバーを断るようにならうと思う。
- トイレトペーパーなど自分の紙の使用量を減らすことで森林資源を守っていきたい。



<追加授業における意見交換後の考察>

- 資源問題は、自分一人や日本一国では解決できない問題であり、各国との国際協力によって早急に取り組んでいくべきだと思う。
- 互いの国の文化や生活、環境を尊重しながら紙とつき合っていかなければいけないと思う。